

1. 札幌医科大学 がん疼痛緩和医療学講座

渡邊 昭彦^{*,**} 山蔭 道明^{*}

(*札幌医科大学医学部 麻酔科学講座, **札幌医科大学附属病院 緩和ケア管理室)

これまでの経緯

① 経緯

札幌医科大学附属病院における緩和ケアチーム設立は2002年であるが、大学における緩和医療学講座は5年間限定で2008年4月に株式会社アインファーマシーズの支援による寄附講座・緩和医療学講座が開講された時に始まる。また、時期を同一にして、北海道4大学（北海道大学、旭川医科大学、北海道医療大学、札幌医科大学）による「がんプロフェッショナル養成プラン」の「専門医師養成コース」に「緩和ケア」のコースが設立され、その分野を札幌医科大学が担当し、その中心に寄附講座が据えられた。

この当時は、医学部における「緩和医療学講座」は数えるほどしか設立されておらず、札幌医科大学に緩和医療学講座ができたことは大きな意義があったと考える。この5年間での活動を簡単に振り返ると、以下のように考えると考える。

② 臨床

附属病院における緩和ケアチームでの活動を中心に、講座としては医療ソーシャルワーカーの特任講師が中心となり緩和ケア・がん相談サロンを他病院施設に先駆けて運営を開始し、多職種による患者・家族サービスを実践した。

③ 教育

医学部4年目に緩和医療学として4講（90分授業）を確保し、5年目の臨床実習においても麻酔科および神経精神科と合わせて緩和ケアチームの活動内容を生で学生に経験してもらえるように配慮した。また、がんプロフェッショナル養成プ

ランの一環として、緩和医療認定看護師コースの看護師に対して症状緩和の講義も担当した。さらには、院内大学院生を対象としたe-learningにも参画し、緩和医療の講義を担当した。

5年間の最大成果としては、緩和専門医師養成のニーズに答える形で大学院生を指導し、緩和医療学として無事学位取得につなげた。

④ 研究

骨転移に伴う難治性疼痛の機序に関して動物モデルを作製して、その一部を解明し、論文化してきた。1980年代にWHO（世界保健機関）が「がんの痛みからの解放」を掲げて以来、長くがん疼痛といえばオピオイドという位置づけは変わっていないが、そこに新たな疼痛機序も含めて一石を投じてきた。

札幌医科大学での緩和医療・緩和ケアの特徴と、その推進を目指した現在の取り組み

厚生労働省は、2012年度から向こう5年間に關して「がん対策推進基本計画」を策定し、さらにはがん医療を推し進めることを目標に掲げた。大学病院としても、全国的に連携をとりながら緩和医療の推進を図る目的で「全国緩和医療学講座連絡協議会」の設立が計画され、具体的に動き始めている。

このような流れの中、上述のように本学での寄附講座・緩和医療学講座は5年間の活動を終えて2013年3月でいったん閉講となったが、今までご支援をいただいていた株式会社アインファーマシーズに株式会社ニトリが加わり、「アイン・ニトリ緩和医療学推進講座」と名称を変えて継続さ

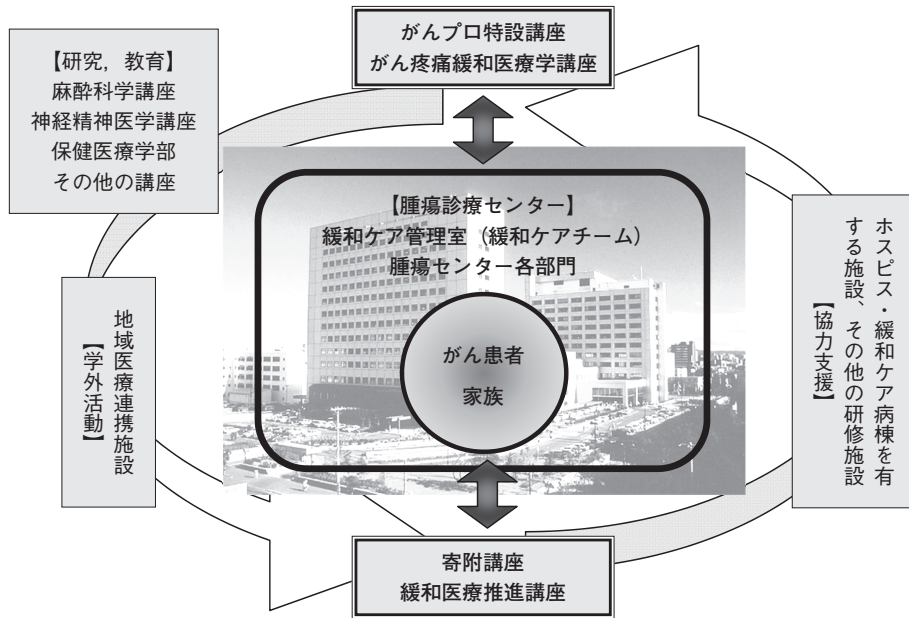


図1 講座の位置づけイメージ図

がん疼痛緩和医療学講座：緩和医療専門医師養成をメインテーマとする。
 緩和医療推進講座：多職種連携をメインテーマとする。

れることが決まった。

この寄附講座の特徴は、配置された特任教員が臨床心理士と社会福祉士であり、多職種連携をメインテーマとした寄附講座という点である。個別相談、がん相談サロン、学習会、公開講座などを独自運営するとともに緩和ケアチームへも参画し、多職種としての枠組みを拡げる活動を展開している。

この新たな寄附講座と同時に、札幌医科大学においては文科省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に基づく「がん疼痛緩和医療学講座」も新設された。このがんプロ新設講座は、いったん閉講された寄附講座が担っていた、緩和医療・緩和ケアの啓発と専門医の養成を最大の目的として設立されたものであり、この講座の特任教員は医師2名が割り振られた。

その両講座を麻酔科学講座教授が束ねる形で運営しており、臨床での実践の場を附属病院腫瘍センターに属する緩和ケア管理室（緩和ケアチー

ム）が提供している（図1）。現在、緩和医療学の中でも痛み関連での学位取得を目指して麻酔科大学院生1名と院外看護師1名が所属し、臨床・研究を重ねる日々を送っている。

今後の予定

札幌医科大学が担う緩和医療は、過去5年間の実績も含めて、全国的にみても緩和医療のあるべき姿を示す1つのモデルケースとして、たいへん注目されていると考える。特に、2013年度からは同一大学内に、上述のように多職種連携をメインテーマとした寄附講座・緩和医療推進講座と専門医師養成を最大のテーマとするがん疼痛緩和医療学講座の2つを擁する形となり、その活動の幅を多方面に向けることが可能である、たいへん恵まれた環境となっている。

社会人入学も含めて門戸を広く開いているので、興味のある方はぜひ札幌医科大学医学部 麻酔科学講座までご連絡ください。